

方言録音資料シリーズ—5

高知県高知市朝倉米田方言

土居重俊編

1968

もくじ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本文	
1. しばてん夜話	5
2. 土佐のオナゴのよもやま放談	18
注	40

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、高知大学教授 土居薰俊が担当した。

収録地点とその方言について

1. 収録地点名： 高知市 朝倉 アカニ 米田

2. 収録地点の概要

昭和42年2月末調査では朝倉地区は世帯数4143人口14452。高知大学や学芸高校などがあるが、全般的には農村的な性格がかなり強いようである。古墳などがある。産物としては島産物（米・麦など）。土産物類倉庫があり、市内電車・バスも利用される。

3. 収録した方言の特徴

/z i/ /d i/ /zu/ /du/ が区別され、鼻音化が聞かれ。母音の無声化が極めて少ないと土佐方言の特質をそなえている。助詞の基合も顕著である。

4. 地点選定の理由

高知市の方言の保守地帯と観察した。川添繁尾さんは県外居住期間の長いのが懸念だが、土佐方言の本来の特質はよくそなえているし、話上手で、土佐のオナゴの元気な性格を100%所有しているので、一応採用してみた。

表記について

〔指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号〕

字母・補助記号の種類	語例と意味	(標準語訳)	音価についての注記
t i	ko: t i	(高知)	(t̪ i)
t u	kikutuka	(開くんだって)	(t̪ u) (tu)
t ja	ju: t jaru	(言ってやる)	(t̪ a) (t̪ a)
t ju	omo: t ju:	(思っている)	(t̪ u) (t̪ u)
t jo	hakaitjoku	(はかせておく)	(t̪ o) (t̪ o)
d i	wara di	(わらぢ)	(d̪ i)
d u	sira nduku	(知らずに)	(d̪ u) (du)
d ja	sukidja	(好きだ)	(d̪ a)
d ju			
d jo	hanadjo: tin	(鼻ちょうちん)	(d̪ o)
()	挿入句的		

- 標準語訳に適当に「ぢ」「づ」を使用した。
- オノマトペアのわから書きの表記にやや統一を欠いたところがある。
- 鼻音化は直読があり、あまりはっきりしないものも一応体系的に表記した。(ぢ づ)
Nの後のd, gは～を記さなかった。
- dodai kibarikiqtjoqta やdodai ikloikiqtju:などのdodaiの最初のd, goNgoN goNgoNなどの最初のgなども少し鼻音化が認められるようであるが、テキストには～を記さなかった。

(1) しばてん夜話

録音日時 1967年1月8日
録音場所 鹿家(高知市朝倉米田)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住地)
K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉で生まれ23才から10
年くらい神戸居住、以後朝倉

解説： 一の関というすもう取りが、しばてん(柴天狗、土佐に住む妖怪)の正体をつかえ
たというので、近所の人が見てみると、わらじと馬のくつだった。そこで一の関はまだ しば
てんにばかりされているぞというので、みんなが杉の葉でこのすもう取りをふすべて正気づかせ
る。そのいきさつがユーモラスに語られている。

K oman kitakajo ma: agarija nantuzejo oman
あなた 来なかね まあ おあがりよ。 なんだって あなた
joga nagai kini aten⁽¹⁾ mata sibaten⁽²⁾ no
夜が 長いから、 わたしに また しばてんの
hanasjo se:tukajo ija: oman iijoijo sibatenga⁽³⁾
はなしょ せよ だて、 いや あなた ほんとに しばてんが
suki djan⁽⁴⁾ oman soro:do sibatenga suki-
すきだね。 あなた それほど しばてんが すき
djaqtara mo' sibateno jomesan⁽⁵⁾ nari ja
だったら、 もう しばてんの 嫁さん おなりよ
sor jaken do hutugo: djaqten do soro:do oman ga
それはしかし 不都合だが、 それほど あなたが
hanasio se: se: ju: djaqtara sit jaro
話を せよ せよと 言うのだったら、 してやろう。
sikasi ne: oman horahorja⁽⁶⁾ ano: inoni itino-
しかし ねえ あなた ほらほら あのう 伊野に 一の

sekito ju: tekara u: n to otokomaeno sumotoriga
因と 言ってから、 うんと 男前の すもう取りが

oqturo siqtju: rogajo nani siraNtukajo
いたろう。 知っているだろう。 なに 知らないだって。

ajakasi: ano otokomaeno sumotorjo siraNkajo
あほうらしい。あの 男前の すもう取りを 知らないの。

so:kajo so:kajo siraN mona sijo:ga naiwajo
そうかね。 そうかね。 知らん 著は しょうが ないわよ。

nambo ju:tati honnara atega korekara sono
どうといくら言っても。 そんなら わたしが これから その

sibateni unto bakasaretato ju: hanasjo
しばてんに うんと ばかされたと いう 話を

sitjauki' honde mimio mimino suo⁽⁷⁾ kozaNto
してやるから それで 耳を 耳の 穴を たいそう

horimakuqtjoitekara kikijorijo e:kajo sono
徹底的にほっておいてから 開いていなさいよ。いいかね その

itinoseki ga zinzini oman hidie jobarete
一の脚が 神隠に あなた 届立へ 叫ばれて

itato itekara oman sakjo doqsari no: dekara
行ったとき。行ってから あなた 酒を どっきり 飲んでから

baqtabatasite modogte kijoqtatuga mo: qte
ぱったばたして もどって 来ていたとさ。 もどって

kijoqtatokoroga oman mjo:na kura:i kukara
来ていたところが あなた 変な 曙い 所から

hitoga dete' kitekara sumo toro sumo toro
人が 出て 来てから、 すもう 取ろう すもう 取ろうと

ju: te ju: to ju:kini josi:dja o:sja: orao
言って 言うんだって。 言うから 上しちゃ 貴様は おれを

sumotorito ju: koto: siraNduku sonna koto:
すもう取りと いう ことを 知らずに、 そんな ことを

i:ju: roga oraga mijoqte mijo buqtuketajoto
言っているだろう。おれが 見ていて みよ、 ぶっつけてやろうと

omo: tekara koito ju:monde jaqtatuga jaqte
思ってから、 来いと いうので やったとき。 やって

moqtjamotja motjamotjasiju:utini mjo:ni
もっしゃもっしゃ。 もっしゃもっしゃしているうちだ。 そこ

tiqkuto⁽⁸⁾ orano asiga mjo:ni harjo sasujo:ni
すこし オレの 足が 变に 剣を さすように

tikutikusurujoto omoi:taitato sondja:kini
もくちくするよと 思い出したとき。 それだから

korja ikanTo omo:te korjakorja kjo:waneja
こりや いかんと 思って、 こりやこりや きょうはだな。

mo: sjo:buga tukaneNdoneja mjo:ni ora:
もう 腹食が つかなければだな。 そこには オレは

asiga itaiki kondomeni sjo:zejato ju:tekara
足が 痛いから、 今度目(次回)に しようぞよと 言ってから

wakaretato se:kara oman kokara inomade
別れなんだって。 それから あなた ここから 伊野までと

ju:tara oman nanbo gotogoto aruitati iti-
言ったら、 あなた いくら ゆっくり 歩いても、 一

zikan ka itizikanhanba:de inanja ikaNgadja-
時間か 一時間半くらいで 帰れば いけないのだのに、

noni oman guruguru guruguru sokomokamo
あなた ぐるぐる ぐるぐる そこもかしこも

maikurima:qtekara oman utie inituitawa
歩きまわってから、 あなた うちへ 畠りついたのは

joakeni naqtato hoitara horja njo:boga
夜明けに なったんだって。 そしたら はら 女房が

oman mo: anmari osoi kini tomari ju:to omo:-
あなた もう あんまり おそいから 泊っていると思

tu:rogajo honde sono njo:bo:wa oman guq-
っているだろう。 それで その 女房は あなた ぐ

suri kuturolide nejoqtato nejoqtato koroga
すりくつろいで 寝ていたんだって。 寝ていたところが

oma n it in o seki ga korja korja hajo: okin ka okin ka
 あなた 一の関が こらこら 早く 起きんか 起きんか
 nan no si jor ja on sja mo: jog a aketa zo to
 何を しているか、 前前 もう 夜が 明けたぞと
 ju: te ju: kini hon de sono jome san mo bi quri-
 言って 言うから、 それで その 暑さんも びっくり
 site a: to¹⁴ ju: mon de oki tato tam aruka¹⁵ okite
 して、 あと、 言うもので 起きたんだって。 おやおや 起きて
 to: a ke te mita toko roga do dai o: go to je o
 戸を 開けて みたところが、 たいそう 大事だよ。
 kimonowa oma n hiki sjak eret jou wa ha dakan i
 着物は あなた 引き裂かれているは、 捻に
 naq te kara asimo dokomo oma n bar a de¹⁶ kakim u-
 なってから 足も どこも あなた バラで かきむ
 sirare te kara timo dure d jato se:kara kin zjono
 しられてから 血まみれだって。 それから 近所の
 hito ka mina okite kite kara u n korja do: itati
 人が 皆 起きて 来てから うん これか どうしても
 sib ate nni baka sare te kara u du soto sumo to q-
 しばてんに ばかされてから、 雑草の茂みと すもうを 取っ
 tan i ti gai nai to ju: ko toni naq tato ho ide oma n
 たにもがいないと いうことに なったとき。 それで あなた
 sono it in o seki mo hor ja mada wakai si na nana-
 その 一の間も ほら まだ 若いし なかな
 ka nis kimo nono sumo tori d jaq takini mijo q te
 か 人気者の すもう取りだったから、 見ていて
 mi jo ko n do koso or a ga jur usan zoto kon do wa
 みよ 今度こそ おれが 許さんぞと、 今度は
 or a ga i te kara hon to: bi q tokoma te kara hiko-
 おれが 行ってから ほんに つかまえてから 引き
 zu q te mo do q te kite kara mis emon ni sit jar o to
 ずっと もどって 来てから、 見せものに してやろうと

ju: mo nde do dai ki bar iki qt oq ta gu¹⁷ (kor ja-
 いうので、 たいそう 強張りちらしていたんだって。 《こら
 kor ja' oma n nan jo si ju: ze jo sono zamawa
 から あなた 何を しているの その ざまは
 jo d arjo ku qte ij ati ja (笑声) han ad jo: tino
 よだれを くって(たらして) いやだよ。 無毛: うちもん
 da i tekara i ne buq te kara son de a te ga ju: tja:-
 出してから 居眠ってから。 それで わたしが 言ってあ
 ra: ha zim eni mimino suo ho q te kara ko zjan to
 らあ、はじめに 耳の 穴を ほってから よくよく
 kiki joto ju: te ju: tja: runi so: kajo so: kajo
 聞いてなさいと 言って 言てあるのに。 そうか そうか
 ho nna kikut uka jo ho nna ma qkoto kikuk ajo
 それなら 听くんだって。 そわなら ほんとに 听くの。
 josi ho nna rara so re kara sak jo ju: tja uki ar ja
 よし それなら それから さきを 言てやるから。 あれ
 i ja i ja: ata: oma nno han ad jo: tinni turare-
 いやいや わたしは あなたの 無毛ちゃんに つられ
 te kara mi: ja oma n dokoma de han asjo si tjqo-
 てから、 見なさい あなた。 ここまで 話を してい
 tajara wak ja wak ar ajo: ni naq te kara was ure-
 たやら わけは わからぬように なってから、 忘れ
 te simo: ta q ajo sa: to dokoma de djaq tu rono'
 て しまったよ。 さあと どこまでだったろうねえ。
 bi qto oma n ga ju: te mito: se ja a: so: ka so: ka
 すこし あなたが 言って みてくださいよ。 ああ そうか そうか
 jo qsi wak aq ta ano bi q tokoma eni iku tokoro-
 よし わかった。 あの ひっつかまえに 行く ところ
 Djaq tano' josi wak aq ta) hon de: se: kara
 じゃったねえ。 よし わかった。) それでねえ それから
 sono it in o seki ga go: ga su it e ore n kini
 その 一の関が 股が 立って いられないから

mijogte mijo kondowa biqtokomaetjaoto omo:
 見ていて みよ 今度は ひつかまえてやろうと思
 tekara joruno zju: zigoroni mata sono: hidī-
 ってから 夜の 十時頃に また その 尾立
 made itato ite se:kara konda koqtjakara
 まで 行ったとき。行って それから 今度は こちらから
 sumo toro sumo toroto ju: te hoqsoi koede
 すもう 取ろう。すもう 取ろうと 言って 韶い 声で
 ju:tatuga ju:tatokorega oman muko:kara
 言ったそだ。 言ったところが あなた 向うから
 mata sumo toro sumo toro ju:to josidja mi-
 また すもう 取ろう。すもう 取ろうと 言うんだって。よし 見て
 jōgote mijo konbankosoto omo: tekara sa: koi-
 いて みよ 今晚こそと 思ってから、 さあ 来い
 to ju:te ju:mama oman matakurano sitae
 と 言って、 言うまでも あなた またぐらの 下へ
 bjuqto teo jaqtatuga nazekato ju:tara sono
 びゅっと 手を やった(入れた)とき。なぜかと 言ったら その
 matakurakara sibaten ga sorja koito ju:ta
 またぐらから しげてんが そら 来いと 言った
 tokini matakurakara sjuqto nigeruto omo:
 ときに、 またぐらから しゃっと 逃げると 思って
 tju:gajakini honde sjuqto teo jaqte biqto-
 いるのだから。 それで しゃっと 手を やって ひつ
 komaeruto oman tegotaega aqtakajo honde
 かまえると、 あなた てごたえが あったよ。それで
 tegotaega aqtaki josidja omsja: orao baka-
 てごたえが あったから、 よし 貴様は おれを ばか
 si joggaga konbankoso tokomaetazoto omo: te-
 していたが 今晚こそ つかまえたぞ 思って
 kara züruzuru hiqpaqe modoqte kitato
 から ずるずる ひっぽって もどって 来たんだって。

hoide kondowa warikata inijo:ga hajakaqtani-
 それで 今度は わりかた 無りようが 早かったらしいが
 ka:ranga se:kara modoqte kijoqta koreoga
 それから もどって 来よったところが
 mo: zibunmo mjo:ni mada asino kizuno nokon-
 もう 自分も 変に まだ 足の 他の 我
 riga hirihiri itaikini u:n zo:kusoga wari:
 りが ひりひり 痛いから うん しゃくだあ、
 mo: ho:to: ora: sibaten no utademo uto:tja-
 もう ほんとに われは しげてんの 歌でも 歌って
 roto omo: tekara sokode jaqtatuga kikijoriyo
 やろうと 思ってから そこで キキ(歌った)んだって。聞いていかないよ
 so: regane tamarukane ju:beno ju:mei ne:to
 それがね たまるかね 夕の ゆうめに わきと
 tjaqjtato kawai ano kono teo hi:te on:sja
 ちゅっちゃんと 可愛い あの この 手を 引いて わんしゃ
 (はやし) (貴様は)
 na:Nnara ora sibaten jo on:tjan sumo toro
 なんなら おら しばんよ わんちゃん すも 取る
 (なただ) (おちさん)
 toro:ti:ja tjaqjt:ja qto:ju:monde jaqtatuga
 取ろうもや ちゅっちゃんと 言うので やったとき。
 (てば)
 (geni uso sorja uso sono utaga oman sono
 (実は うそ。それあ うそ。その 歌が あなた その
 zibunni aro: kota naidjai ka sono utawa
 時分に あろう ことは 無いぢやないか。 その 歌は
 pegi: hajamasa naga ko:ti: kitekara horja
 ペギー 鶯山さんが 高知へ 来てから、 ほら
 ano: nangokutosa hajaraita tokidjia ro:go:jyo
 あのう 南国土佐を はやらせた ときだろうき、
 sono tokini dekitia utadajakin honde sono
 その ときに できた 歌だから、 それで その
 tokini sono utaga aro: haza naikendo atemo
 ときに その 歌が 有らう はずは 無いけれども、 わたしも

mjo:ni oman ga neburusi mo: aho:nika:ranki
 なんだか あなたが 聞し もう あほうしいから。
 tikuто uta uto:te mitatokorojo) josi se:-
 すこし 歌を 飲って みたところ。) よし それ
 kara dja se:kara oman soreo biqtokomaete kara
 からだ。 それから あなた それを ひっつかまでから
 hikozuqte modori joqtatokoroga mjo:ni teqotae-
 ひきずっと もどっていたところが 度に てごなえ
 ga karu: naqtato arja do: ju: mondjaro ora-
 が 嵐く なったとさ。 あれ どう いう もんだろう。 われ
 ga saqkini hiqpaqte ikiju: tokinai zongai
 が 先刻 ひっぽって 行っている ときには 素外。
 omokaqtato omo:tanoni mjo:ni karuijoto omo:-
 重かったと 思ったのに、 度に 軽いと 思つ
 te omo:takendo ma: hajo: utie indekara ko-
 て 思っただけど、 まあ 早く うちへ 船ってから こ
 no biqtokomaete kita sibateso minnani mi-
 の ひっとらえて 来た しばてんを みんなに 見
 setekara minnani biqkurisaitjato omo:tekara
 せてから、 みんなに びっくりさせてやろうと 思ってから、
 do:dai ikoikiqtiu: gajaki horja honde zu:to
 たいそう 势こんでいるのだから、 はら。 それで ずうと
 uti modogte kite se:kara mada sono toki
 うちへ もどって 来て、 それから まだ その とき
 jog aketja: se:skini honde minna:ni korakora
 夜が 明けてはいないから、 それで みんなに こらこら
 minna: dete koijo dete koijo oraga konban-
 みんな 出て 実いよ、 出て 実いよ、 おれが、 今晩
 koso sibateso hiqtokomaete kitazo onsisra:ni
 こそ しばてんを ひっつかまで 来たも 打的たち
 misetjara: ja misemoni suruzoto ju:monde ju:tato
 見せてやるよ 見せものに するぞと いうので 言ったとか。

ju:to soqkaramo koqkaramo dorja misete mo-
 言うと そこからも ここからも どれ 見せて も
 rao dorja misete moraoto ju:monde oman kiu-
 らおう、 どれ 見せて もらおうと いうの、 あなた 近
 zjono hitoga atumaqte kite mitatokoroga
 所の 人が 集って 来て 見たところが、
 oman sorega do:zejo sono oman hiqpaqte ki-
 あなた それが どうかね その あなた ひっぽって 米
 ta monwa:nanto omou:a: nanto omoudokoron
 た ものは 何と 思う。 あー なんと 思うどころの
 sa:gikajo oman sorega oman sirikireno wa-
 さわぎかね あなた。 それが あなた しりおの わ
 radito Nmano kutudjato Nmano kutu ju:tara
 らちと 馬の くつだって。 馬の くつと 言つたら
 nanzejotu kota arukajo oman oma:nra atera
 何だねといふ ことは あるかね あなた あなたたち わたしなど
 meiso honna: tosia:tiqa:Nnoni siran kota:
 あまり そんなに 年は 違わないの、 知らん ことは
 aruka mukasi ano hora imamitaini kuruma'
 あるものか。音 あの ほら 今みたいに 車は
 nai tokini Nmani senakae nanfkani owaiteka-
 無い ときに 馬に 背中へ なにやかや 負わしてか
 ra t'intin t'intin ju:te hiqpaqte kijootdai-
 ら チンチン チンチン いって ひっぽって 来ていたらない
 ka ano tokini horja kanagutuo uqtjoite so-
 かの ときに ほら 金ぐつを 打つておいて そ
 no ue: warade sita kutuo hakaitjoqtutorgajo
 の 上へ わらで つくった くつを はかせていただろう。
 arega oman usino kutudjai ka so:jo sono
 あれが あなた 牛の くつちやないか。 そうよ。 その
 oman usino kututo waradino oman sirikireo
 あなた 牛の くつと わらの あなた しりおの

hi qapqekara korega sibate ndjate mo: qte
 ひっぽってから、これが しばてんぢゃといって もどって
 kitatuga se:kara omaN kinzjono hitoga do:
 実なんだて。それから あなた 近所の 人が まっ
 ði o:goto sawagijo kendo omaN korja ikan-
 たいへん(な) 顯ぎよ。けれど あなた これは いかん
 zoto do:itiati mada sibaten ni koituwa dama-
 ゼと、どうしても まだ しばてんに こいつは だま
 sarettu kini do: zositekara hajo: korjo nao-
 されているから、どうかして 早く これを おお
 sanja ikanga do: surajato ju: mo:nde se:ka-
 されねば いかんが どうするのかと いう もので、それが
 ra minna:ga jos: sijo:nai zoto hon: oraga
 みみなが よし しようがないぞと、それで おれが
 jamae itekara za nzi ano: sugino hao tote
 山へ 行ってから、すぐに あのう 彫の 素を 取って
 kuruki sorede sorede husubemakuro: sekara
 来るから、それで それで 徒歩的によすべよう、それから
 ulto koi tjaо daitе kitara soreo nomasejato
 うんと 読い 茶を 出して 来たら、それを 放ませてやろう
 ju:monde dodai sono sugino ha:de gongon gon-
 いうので、たいそう その 彫の 葉で ごんごん ごん
 gon: sono: omaN itinosekio husubemakuqtatuga
 ごん そのう あなた 一の閑を あすべにふすべんだって。
 tokoroga sorja tanukidja nakaqtaki kon kon-
 ところが それは たぬきでは なかつたから こん こん
 towa juwazaqtakamo sorja siraNejo ata: so-
 とは 宮わなかつたかも それは 知らんよ、 わたしは。それ
 rja sirankendo omaN sorede daibu honkiga
 は 知らないけれど あなた それで だいぶ 本気が
 tuite omaN ko mjo:ni burahura meo batikuti
 ついで あなた こう まへふらふら、 目を ぱくち

batikutisai tekara mjo:ni su:qto naqte kita-
 ばらくちさせてから 夏に すうっと なって 来た
 tuga ikana omaN itinoseki demo se:kara a-
 そうだ。いかな あなた 一の閑でも それから あ
 ijoijo korewa sibaten ni damasaretato kendo
 ほんとに これは しばてんに だまされたと しかし
 kono sibaten wa nakanaka wakatedja: nai zoto
 この しばてんは なかなか 若手では ないぞと
 nedosjo kutjouzoto nedosjo kuwanja: koroho-
 年期を 入れているぞと 年期を 入れなければ これほ
 domade e:bakasan kinito ju: hanasi ga ho:boe
 どまで ばかりすことができぬからと いう 話が 方々へ
 hirogoqtatoh hirogoqtakini hon:da:kini mo:
 ひろがったとき。ひろがったから それだから もう
 joruwa omaN hitoga mo: e: to:ranjo:ni naq-
 夜間は あなた 人が もう よう 通らんように なっ
 tawajo sibaten ga bakasukini bakasukini ju:
 たわよ、 しばてんが ばかりすから ばかりすからと いう
 koton naqte nani: ima omaN sibaten ga oru-
 ことに なって なに 今 あなた しばてんが 居る
 katuka ajakasi: koto i:naja omaN ima hidawa
 かだって、 ばかりかしい こと 言いなさるな あなた。今 尾立は
 ano: omaN do:rowa hiro naqte jamawa omaN
 あのう あなた 道路は 広く なって 山は あなた
 kirihiraita simo:tekara hanakana kuni naqte
 切り開いて しまってから、 繁華な 所に なって
 omaN jorumo josirakujoq pito omaN o:kena
 あなた 夜も 夜通し あなた 大きな
 kurumaga dondon to:riju:djaika do:ite ima-
 朝が どんどん 通っているではないか。 どうして 今
 goro sibaten ga oruzejo kendo omaN ijoijo:sibaten-
 ほんとに しばてんが 居るの。 けれど あなた ほんとに しばてん

ni kōdawaru omanwa ijoijo sibatenga sukiðja-
に こだわる。あなたは たいそう しばてんが すきだ

ne: soro:do sibatenga sukiðjaqtara horja
ね。それほど しばてんが すきだったら ほら

ategā e: koto osietjara: jo harimajatō: ni
あたしが よ いこと 教えてあげるよ。宿泊屋町に

horja ko: tikenno omotjao ano omotjadjā nai
ほら 高知県の おもむを、あの おもむち ない

nai omijage omijage so:so: omijage uriju:
ない おみやげ おみやげ そそう おみやげ 売っている

misēga aruro:ðajo akojara njukotijara
店 あるだろう。あそこやら ニューコーテやら

daimarujarano ano omotjano uribae ite mi:ja
大丸やらの あの おもちゃの 売り場へ 行って みなさい。

bonnara sibatenga horja ano agurao kaitē
それなら しばてんが ほら あの あぐらを かいて、

harae mjo:na ano harakakeo site atamae mjo:
腰へ 変な あの 腹かみを して、腰へ 変

na tengansmitaina mono hiqtuketekara oma:
な 天着(がい)みたいな もの くっつけてから、あなた

sibatenga uriju:ðjaika are hijakunizju:en
しばてんが 売っているじゃないか。あれ 百二十円
(包)のあやまり

daitara aru aru hutoigāðjaqtara unto takai-
出したら ある ある。大きいのだったら うんと 高い

kendō hoqsoigāðe e:wajo oma: hijakunizju:en
けれど 細いので いいわよ。あなた 百二十円

daitekara kō:te kitekara dokozoe oitjoki
出してから 買って 来てから どこかへ 置いておき。

oma: ijoijo oma: sibatenga sukiðjane: josi
あなたは ほんとに あなたは しばてんが すきだねえ。 よし

se:kara ma: tonikaku sibatenga hanasiwa
それから まあ とにかく しばてんの 話は

koreðe owarimasita inurukajo u: omosirokaq-
これで 終りました。帰るの うん おもしろかった

takajo honnara e:wajo honde inurja: oma:
たの、 それなら いいわよ。それで 帰るなら あなた

daibu osoizejo konban kio:tukete inijo siba-
だいぶ おせいよ、 今晚 気を つけて 帰りな。 しば

tenga dete kuruzejo sibatenga oma: sukiðja-
てんが 出て 来るよ。 しばてんが。 あなた すきだ

ki: n: ko:nai hitotumo ko:nai pjuqto hasiq-
ら。ん こわくない すこしも こわくない びゅっと 走。

te inurutukajo honnara inija inija ko:nai-
て 帰るんだって、 そんなら お帰り、 お帰り。 こわく

kerja ata: okuqtjarki honnara ojumi
なければ わたしは 送ってやらんから。 それなら おやすみ。

sorja kita: horja mite mi: oma: no sono
そら 来た ほら 見て ごらん あなたの その

kaoiro hitoqtumō kao iro naiðjaika soreba:-
顔色 すこしも 無に 色が 無いちゃないか。 それくらい

no kotoni biqkurisitekara oma: do:zejo
の 事に びっくりしてから。 あなた。 どう

konogorowane: tujo: naqtanowa kutuzita
この頃はねえ 強く なったのは、 くつした

nnanato onagodjato ju: kotoni naqtju: rogojo
(言いさし)と 女だと いう 事に なっているだろう。

oman sonna koto siqtjoqte oma: soreba:ni
あなた。 そんな 事 知っていて あなた それくらいに

ategā sorja ju:te odokaitaba: no kotoni
あたしが そらと 言って 驚かしたくらいの 事に

biqkurisinaja ajakasi: meqso oma:mo kibaq-
びっくりしなさるな。 ばからしい。 あまり あなたも えらそう

tati ikan ikan inurukajo honnara mo: kondō-
にしても いかん いかん 帰るの そんなら もう こんど

koso ojasumi baiba::i un jo:jo inda mo: ho-
 こそ おやすみ バイバイ。うん やっと 飛った。もう ほ
 nto: iq tumo iq tumo kitekara hitoni sjabera-
 とに いつも いつも 水てから、人に しゃべら
 itekara aa:::no N:N mo' atemo daretmo:
 してから。ああーの んーん もう わたしも つられた。もう
 maqkoto sjabeqtekara nebuto:te nebuto:te
 ほんとに しゃべって、ねむくて ねむくて
 oreN dorja mo: maqkoto ne:tjao ne:tjao
 いられない どれ もう ほんとうに 痘でやろう。 痘でやろう。

(2) 土佐のオナゴのよもやま放談

録音日時 1967年1月8日
録音場所 高知市朝倉米田

話し手

(略号) (氏名)(性別)(生年)(職業)(居住歴)
K 川添繁尾 女 明治27年生 製米業 高知市朝倉2丁目23才から10年ぐら
 い仲戸佑作 以後朝倉
S 采枝千代 女 大正元年生 畜業 高知市朝倉2丁目19才から6年間香
 川屋居住。以後朝倉
X 不明

解説: 「七十台と五十台との婦人が、服裝・食物・家のあかり、神祭その他について、思い出を興味深く語る。マコド・タマルカなど強調的な語が随所にあふれ、きかぬ気の土佐人気質を反映している。

K (笑声) tada waro:tebakari oqtandja wakarandja:
 ただ 笑ってばかり いたのでは わからないぢ
 ika² josi honnara jutjao ategane: ano ni-
 なけむ よし それなら 言ってやろう。あたしがねえ あのう 二
 zju:sitineNmaedjaki: niqsiNsenso: no hazimaqta:
 十七年前だから 日清戦争の 始まった
 tokini ate hmaretjugajaki hora
 ときにはわたしは うままれているのだから ほら。
S tama:ruka daibuni narudjanaiika
 おやまあ だいぶに なるぢゃないか。
K daibuni nara:idja'oman sitizju:sijo honde
 だいぶに ならあ。あなた 七十四よ。それで
 atega hora zinjyo: itineNno tokino koto
 わたしが ほら 異常 一年の ときの ことを
 ju:tjauki jo: kikija
 言ってやるから、よく お聞き。
S ju:te mi:
 言って どちら。
K sono zibusno oman seNseiwane: maqkoto oman
 その 時分の あなた 先生はねえ ほんとに あなた
 imawa oman mio: na haikarani titiraitekara
 今は あなた 奇妙な ハイカラに もちらしてから
 omaN seNseimo ma: ju:tara waruikendo onago-
 あなた 先生も まあ 言ったら 悪いけれど、女
 no seNseiwae osiroi tuketekara maqkoto hai-
 の 先生は おしい つけてから ほんとに ハイ
 karadjakendo aterano tokino seNseiwae oman
 カラだけれど、わたしたちの ときの 先生は あなた
 ano hakamao tuqte ebitjano hakamao tuqte
 あの はかまを はいて えび茶の はかまを はいて
 hora
 ほら。

S so: so:
そう そう。

K se:kara oman atama ju:tara jokoboriga: no
それから あなた 頭と 言ったら 橫堀川の

wasureta darjarosanno: arja: jokoboriga: no
忘れた 誰さんかねえ。 あれは 橫堀川の

darezejo arja:
誰かね あれは。

X otakasan²³
おたかさん。

K otakasan otakasanmitaina anna itijo:gaesino
おたかさん おたかさんみたいな あんな いじょうがえしの

kamio senseiga ju:tjoq taki hora
髪を 先生が ゆっていたから ほら。

S h:n
ふーん。

K soreba: mukasino koto djaki se:kara omosiro-
それくら 书の 事だから。 それから おもしろ

i djaiaka atega zinzjo: itine ne ita tokini
いちやないか わたしが尋常 一年へ 行った ときに、

sono zibunwa ju:tara oman ma: un to kanemo-
その 時分は 言ったら、 あなた まあ うんと 金持

tino koto binboninno koto un to arakiga aq-
の 子と 貧乏人の 子と うんと へだたりが あっ

taki hora honde kanemotino kowa ano sekida²⁴
だから ほら それで 金持の 子は あの セキだを
(雲歎)

haitju: to binboninno kowa minna: zo:ridjaq-
はいていると、 貧乏人の 子は みんな ぞうりだ。

takin i se:kara kimonowa tutu qpo:djaki tutu-
だから それから 着物は つづっぽだから、 つつ
(その短かい着物)

qpo:de se:kara kamja sjobosjoboda: se:kara
っぽうで それから 髪は しゃぼしばだ。 それから

atera: ano: nani jojo kasurino kimono ki:te²⁵
わたしら あのう あねだ、 かすりの 着物を 着て

murasaki no ano: heko: bjo sitjoq taki hora
紫の あのう へこ帯を していたから ほん

otokomo onagomo sonna mondjaqtaki sorekara
男も 女も そんな ものだったから、 それから

senseiga tamaruka zurari:qto narabekara
先生が まあ ずらりーっと ならべてから

itatokoroga oman atewa irono maqkuroi kami-
いたところが あなた わたしは 色の 真黒い 紫

no unto kuroi kodjaqtato so:ndja: kini oman
の うんと 黒い 子だったとき。 それだから あなた

otokono kono kue ata: narabasretene: hoita-
男の 子の ところへ わたしは ならばされてねえ、 そした

ra utino ano: oka:sanga ju: kotonja: sensei
ら うちの あのう おかあさんが いう ことには、 先生

sensei sono kowa ano: onagomo kode gozaima-
先生 その 子は あのう 女の 子で ございま

suga ju: te ju: ta tokoroga arja ozjo:tjande-
すがと 言って 言った ところが、 あれ お嬢ちゃんで

(補註) sitaka anmari ogenkina kao sitju:kini honde
したか あんまり お元気な 顔 しているから、 それで

otokono kokata omoimasitato ju: te juwareta-
男の 子かと 思いましたと 言って 言われた

ba: djakini meqso imademo beqpi indekara oman
くらいだから あまり 今でも べっぴんだから あなた

kawairasi: kao sitjorana: jo oma:ra: no tokja
可愛らしい 顔 してはいいよ。 あなたなどの ときは

donna koto jaqtazejo
どんな ことだった。

S atera oman omanga sono sekidano koto ju:ki-
わしら あなた あなたが その セキだの こと 言うか

ni ju:keNdone: ano sekido haite oman
 ら 言うけれどねえ、あの せきだを はいて あなた
 片一方
 katai ipo miki asiga konda hidari asajo suqte
 右足が 今度は 左足を すって、
 ito:te ito:te maqkoto honto: sekido no ko:
 痛くて、 痛くて、 実際 ほんとに せきだの こう
 surea: sedē
 すれあわせで
 K n:
 ん~。
 S rjo:ho: no oman honto: asiga taite ata' tiga
 西方の あなた ほんとに 足が ずいぶん わたしは 血が
 dete itaka qta koto: oboetju:ga
 出て、 痛かった ことを 覚えているが。
 K so: jo ano sekido ka hora u:Nto atui ka:ðja-
 そうよ、あの せきだが ほら うんと 厚い 皮だ。
 q taki horja
 だから ほら。
 S so: jo so: jo
 そうよ そうよ。
 K hon de ano: hora kiribusajo kiribusajo ki-
 それで あのう ほら かかとよ、 かかとよ、 か
 ribusao tukimakuturo^脚
 かとを 肢底的にいたろう。
 S arewa omas tuqtuite tuite rjo:ho: o dōdai
 あれは あなた つづついて ついで 両方を まあ
 honto: tiga dete are itaka qta koto ima obo-
 ほんとに 血が 出て、 あれ 痛かった ことを 今 覚
 etju:ga tigo:ta monzejo
 えているが 通った ものだよ。
 X se:kara omanra do:zejo ateraga ensokuni iku
 それから あなたなど どうなの、 わたしらが 速足に 行く

tokin Jane: omañ jakimesijo hōrja
 ときにはねえ、 あなた 健康よ。 ほら。
 S so: sō:
 そう そう
 K keNdo meqso tiga:s kajo honnara omaNra:to
 けれど あまり 違わないかね、 それなら あなたたちと
 atera: to
 わたしたちと。
 S a no siroi huro siki ie jakime'sjo o:te tikuwao
 あの 白い ふろしきへ 猿猴を 負って 竹輪を
 K buta:tu huta:tu
 二つ 二つ。
 S tikuwao irete jo: kosiraete moro:te i'a
 竹輪を 入れて、 よく こしらえて もらって 行った
 kotoðjaqtaga
 ことだった。
 K se:kara hora imadja:qtara sui to:ðja: na-
 それから ほら 今だったら、 水筒だ 何。
 dja: ju:keNdo sonna monga arukane: taka:
 だと いうけれど、 そんな ものが あるのかねえ。 全く
 imano kowa tokuzejo maqkoto nanja:ro kajaro
 今の 子は 得だよ ほんとに。 何や かや。
 S rjukku-saqkudja nanja:ro sui to:ðja: ju:jona
 リュック サックだ 何とか 水筒だと いうような
 mono: kakete ikuga mukasja omaN usiroe
 ものを かけて 行くが。 音は あなた うしろへ
 huro siki e
 ふろしきへ。
 K sorega e: tokoroðjaqtaki hora
 それが いい ところだったから ほら。
 S so: so: siroi huro siki ga e: tokorojo
 そう そう 白い ふろしきが いい ところよ。

K e: tokorōdjaqtakine: jōgorekajaqtekara²⁰ se:kara
 いいところだったからねえ。 ひどくよごれて、 それから

mjo:na zo:rjo'horja: kokoe turikugtekara
 父女 ぞうりを はら ここへ つってから。

ano: jokoqtjoe jokoqtjoe turikuqtekara se:-
 あのう 横の方へ 横の方へ つってから。 そ

kara imadja'qtara oman sensēiga daresore:
 れから 今だったら、 あなた 先生が 誰それと

ju:te namee jo:dārā²⁰ haijja ju:te ju:kendo
 言って 名前を 呼んだら、 ハイだなんて 言って 言うけれど、

sono zibunja aidā i:joqtazejo ai ju:tara
 その 時分に e アイなんて 言っていたよ。 アイと言ったら

zjo:to: djaqtazejone: haijja: ju:te ju:jo:na
 上等だったよねえ。 ハイだなんて 言って いうような

kota: nakaqtaki hora: sōreba: taka:
 ことは 気かったから ほら。 それぐらい ほんとに。

S jo: se:kara maekakeo site itano:
 よう、 それから 前かけを して いたねえ。

K N: so: so:
 ん~, そう、 そう。

S mukasino hitowa mukasino kowa maekakjo
 吾の 人は 昔の 子は 前かけを、

nagai maekakjo site jo: gaqko:e itaga
 長い 前かけを、 して、 よく 学校へ 行ったが。

K makoto gaqko:e ikuni maekakjo sita arja
 ほんとに 学校へ 行くのに 前かけを した。 あれは

do: ju: mondjaqtaro: horja sekara oman
 どう いう ものだったろう ほら。 それから あなた

iijarasi: hanasiđjakendo obenzho ite maekake
 いやらしい 話だけれども、 お便所へ 行って 前かけて

teo huitari sitene: ima tianto tenuguo ko:-
 手を ふたりしてねえ。 今 ちゃんと 手ぬぐいを こ

site (itju:) imawa mo: tjanto namaeo kai-
 うして (している。) 今は もう ちゃんと 名前を 書い

tju:ki wari: kota serareenzejo oman zibunno
 ているから、 悪い 事は してはいけないよ。 あなた 自分の

namaeo tjanto mune: kaitjauki horja
 名前を ちゃんと 身へ 書いてあるから ほら。

s:kara oman atja: oman ano: nanino simano
 それから あなた わたしは あなた あのう 何の 様(しま)の

kimono: oqte morote soreo kiate ite tama:-
 着物を 繕って もらって、 それを 着て 行って たいへん

ruka hotaejoqte tukueno, sumino kugie hiqka-
 たいへん たわむれさわいでいて、 机の 両の 釘へ ひっか

kete tamaruka kagizakinisite modogte kite
 けて おやおや 飼の形で置いて もどって 来て、

taitē dukareta koto: e: wasurenga:
 ひとく しかられた ことを よう 忘れんが。

K omaNra:mo taitja wari koto surugajaqturo
 あなたたち ずいぶん わるさを する者だったり、

mo: imawa mo: waru koto se: ju:tati tosi
 もう 今は もう わるさを しろと 替ても 年

joqte e: senkendo sone zibunja taitja wari
 よって することができぬけれど、 その 時分に e ずいぶん わる

koto siqoturo:kini²⁰
 さを していただろうから。

S taitja sita sita
 ずいぶん した。 した。

K se:kara hora se:kara oman ano: kimono jaramo
 それから 僕は それから あなた あのう 消物なども

so:đjaqtakendo
 そうだったけれど。

S taberu monmo tigo:tazejo maqkoto²⁰ mukasito
 たべる ものも 違うよ。 まことに 音と

imato ju:tara maqkoto tigo:tazejo mukasja
 今と 言ったら、 まことに 違ったよ。 昔は、
 K mukasijaqtara itiba: e: saiga taimono koroba-
 前だったら 一番 よい おかげが 里のもの ころば
 si horja horja horja taimono korobasio
 し。 ほら ほら ほら 里のもの ころばしよ。
 を入れて来たもの)
 S sono taimono korobasi:ga kiraide hanenoke
 その 里のもの ころばしが きらいで はねのけ
 hanenokesite kutaga ma: mukasiwa nimono
 はねのけして 食ったが まあ 昔は 物
 daikono nimono gurai:ga sekinojamakajo
 大根の 烹物ぐらいが 関の山かよ。
 K n:n daikono nimonoga sekinojama se:kara mi-
 んへん 大根の 烹物が 関の山。 それから み
 soziruto ju:tara horja utide tunko tunko
 そしると 言ったら、 ほら うちで つんこ つんこ
 tuite mada misomo meqso: mazirangan mjo:ni
 ついで まだ みそも あまり まじらいのの 夏に
 ko:zikusajio:nagade horja se:kara sjo:jū
 こうじ臭いよなので ほら。 それから 醤油と
 ju:tara minna utide tukuriyoqtaki
 言ったら、 みんな うちで つくってから。

S uti minna kau koto:ga arumonka
 うち 告 買う ことが あるもんか。
 K kau kota zenjo tukau kota nakatqa zenjo
 買う ことは、 金銭を 使う ことは、 なかった。 銭を
 tukauti daitai mo:ke hitotumo naigadjsaki
 使うたって、 だいたい もうけ ひとつも 無いのだから
 horja honde ko:ku: monmo tigo:ta imaqoro
 ほら。 それで こう 食う ものも 違った。 今頃
 nanja:ro jo:sjokudja kare:dja nandja ju:ke-
 何とか これ 海食だ カレーダ 何だと 言うけ

ndo kate:dja oman nandja: ju:tati arja
 れど、 カレーだ あなた 何だと 言って、 あれは
 mukasino ozijazejo (笑声) kendo imano kowa
 昔の おじやだよ。 けれど 今の 子は
 t janto oman konogoro ano nani: ite mi:ja
 ちゃんと あなた このごろ あの 何へ 行って ごらん。
 kabuedemo ite mi:ja tja:n to oman itekara
 カフェでも 行って ごらん。 ちゃんと あなた 行ってから
 kosjo kakete kara oman mukasino koto tigo:-
 腹を かけてから、 あなた 昔の 子と 違っ
 te arajo ku: koto siqtu:kini
 て あれを 食う ことを 知っているから。
 S siqtu:
 知っている。
 K taka: jaqta monzejo: maqkoto korja koko
 まったく でかいした ものだよ。 ほんとに。 これは ここ
 zju:nen sitara do: naruroho:si makoto donna
 十年 たらどう なるだろうね。 実際 どんな
 mon kui:dasuroho:nanbo ju:tati komjo kuwan
 もの 食いださうね。 何と 言ったって 米を 食わんように
 naruzejo
 なるよ。
 S torino maruqta:demo jaite ku:ba:ni nara:jo
 鳥の 九ったでも、 繋いて 食うくらいに ならあよ
 oma:mo
 あなたも
 K honde atega ima horja maqkoton: koto:ga
 それで わたしが 今 ほら ほんとの ことが
 komjo tuki ju:ro: (nizju:ninen) jaruke:done:
 米を ついているだろう。 (二十二年) やるけどねえ。
 maine:n maine:n doqsari kome no:tuku rjo:ga
 毎年 毎年 どっさり 米の つく 腹が

hegte kitaki minna: komjo kuwanjo:ni naq-
 へって 米だから みんな 米を 食わんように なっ
 tawajo
 たわよ。
S panokukajo
 パンを 食うかよ。
K i: pandja: ramendja: nanja: rodja jute
 いー パンだ ラーメンだ 何やらだと 言って
 sonna monbaqkari kutekara komjo rokuni
 そんな ものばかり 食ってから 米を ろぐに
 kuwanzejo
 食わんぜ。
S mukasja muqimesja kuijooqtaganjo:
 雷は 変則は 食ってたがねえ。
K mugimesi mugimesi mugimesimade e:kendo oman
 麦飯 麦飯 麦飯まで よいけれど、あなた
 madataimomesi
 まだ 黒いもめし。
S taimomesi imomesi
 黒いもめし いもめし。
K sore: sio iretekara omañ siogaro:te tja:
 それへ 塙を入れて あなた 塙がらくで 茶を
 iretara bokaboka hokahoka imobaqkariqa uite ho-
 入れたら ばかばか ほかほか いもばかりが 潤いて ほ
 rja
 ら。
S nukuitutinara e:kendo hijo: naqtara koroko-
 めくい うもなら いいけれど 寝く なったら、ころこ
 rokotokoro soti ma:s:i koti ma:s:i hanete
 る ころころ そっち 瞬し こっち 瞬し はねて。
K se:karahorja okat:ga okat:ga mesjo joso:te
 それから ほら おっかあが おっかあが めしを よそって

kureru tokinja horja imono keo imono keo
 くれる ときには ほら いもの 毛を いもの 毛を
 suteta aho: ju:mai otojanji siroi mesjo
 柄てた(ら) あほう 言なさるな、おとうさんに 白い 簪を
 kuwasan ja ikankini omanraga imo kutjoqtara
 食わされば いけないから、あなたたちが いも 食っていたら
 e:ðja: ju:tekara maqkoto geni sono sonna
 いいだとか 言ってから、 ほんとに 実に その そんな
 koto ju:kendo makoto honna koto ju:kedo so-
 こと 言うけれど まことに そんな こと 言うけれど、そ
 no zibunni so: ju:jo:na hogona mono: kute
 の 時分に そう いうような よくない ものを 食って
 kita koga moqto buni aqtane:
 来た 子が もっと 丈夫に あったねえ。
S so:ðja imano kowane:
 そうだ 今の 子はねえ。
K imano kowa anmarikoto honto' nmai mondja
 今い 子は あまり 本当に うまい ものだ
 nandja korega zijo:ðja korega zijo:ðja ju:-
 なんだ これが 演奏だ、 これが 演奏だと 言っ
 te kuwasukendo warikata jowai zejo
 て 食わせるけれど、 わりかた 弱いよ。
S so: juwa: tosijoriwa nandemo kuwanja ikan...
 そう 言うよ。 年よりは。 何でも 食わねば いけない...
K nandemo kuwanja ikan nandemo kuwanja ikan to
 何でも 食わなきゃ いけない 何でも 食わなきゃ いけないと
 ju:
 言う。
S warai: kota: nakaqtaga imano kowa e:mono
 悪い ことは 無かつたが 今い 子は 上い もの
 kute ano warui
 食って あの 黒い

K n-zuqto makoto bjo:sinnakine: de jaqpari
ん-ずっと ほんとに 病身だからねえ。 で やぱり

mukasimitajoni taimo kutari karaimo: mugi-
昔みたに ためらひ 食つたり さつまいもを 苗飯

mesjo kutarisitekara hutoraita monga zuqto
を 食つたりしてから ふとらせた(生産せた)者が ずっと

djo:bunaki sono ho:ga zuqto e:zejo
丈夫だから。 その 方が ずっと よいよ。

S sōrekara konogoro hora denka denka denkaka-
それから この頃 ほら 電化 電化 電化化

~dja jute denkimono denkimonobaqkasi
だと 言って 電気もの 電気ものばっかり。

K so:jo zenjobaqqari tuko:te
そうよ、 せにをばっかり 使って

S mukasjo mite mi:ja ranpu
昔を 見て ごらん ランプ。

K ranpu
ランプ。

S hu:
ふーん。

K ate nkurane: makoto sono zibunnja
わたしのうちなどねえ、 ほんとに その 時分には、

S atera:
わたしなどは、

K ranpuno so:djo saseraretu:go
ランプの 撫除を させられたんだろう。

S denki:ga tui:taga atega oman iku:tuba: no toki-
電気が ついたのが わたしが あなた いくつぐらいの とき

~dja qturo: no: so:dja itutuka muqtuba: no toki-
だったろうねえ。 そうだ 五つか 六七ぐらいの とき

~dja qturoka
だったうか。

K biqkurisituro'
びっくりしたり。

S sono tokinja makoto biqkurisita ako: naq-
その ときには まさに びっくりした。 明るく なっ

te ~dja
て。
そ

K ako: (笑 声) kendo omanra mada so: ju:kendo-
明るく けれど あなたなんか まだ そう いうけれど

ne: atera kodomonono tokinja andodjaq tadejo
ねえ、 わたしなど こどもの ときには 行進(あんどん)だったよ。

ando ando
あんど、 あんど。

S atera: andowa siran
わたしなど あんどは、 知らん。

K sira:nro' sono tokinjane: ano: andodene:
知らないだろう その ときに やねえ あの あんどでねえ。

N:kara joru hora minna kodomojaraga sjo:ben-
それから 夜 ほら みんな こどもなどが 小便に

ni okosanja ikanro: sono tokini hora suqto
に 起こさねば いけないだろう。 その ときに ほら ずっと

denkidaqta suqto tuku kendo ranpudi:ja
電気だったら、 ずっと つく けれど、 ランプだなんて

jutara oman kesitjouro: kajo oman bojao
言ったら あなた 消しているだろう、 あなた。 ほやを
(ランプの外側の球)

ue: agetjoite sino tukete sijqotara kowai-
上げておいて しんを つけて していたら あぶない

ro: sondjakinine: ano to:sinto ju: hora
だろう。 それだからねえ、 あの 慈心と いう ほら

aburae tuketa aterano tokinja andodjaqataki:
油へ つけた。 わたしなどの ときに も あんどだったから、

ho:de denkidaqta oman suqto ima hineqta-
それで 電気だったら あなた ずっと 今 ひねた

ra tukuro:~gajo tako: kendo zeitakuni naqta
ら つくだろ。 たいそう しかし せいたくに なった

monzejo: honde minna' ima tosiga: maenja
ものだよ。 それで みんな 今 年が 前には

gozju:nendjaqtakedo ima sitizju:nendja ju:ken-
五十年だったけれど、 今 七十年だと 背うけれ

dono: imano hita moqto bjo:kiga dekita
どねえ。 今の 人は もっと 病気が できた

kendo do: mouzejo omanra denkika denkika
けれど どう 思うの あなたなど 電気化 電気化と

jute zenja na:nbodemo irukendo ma: omanra
言って、 せには いくらでも いるけれど、 まあ あなたなど

aterakara mitara daibu wakaikendo soro:dono
わたしなどから 見たら だいぶ 若いけれど、 それほど

ko:kaga aruto omoukajo
効果が あると 思うかね。

S hono kari mukasiwa hora zenimo oman to:huh-
その かわり 菲は ほら せにも あなた 豆腐

ka sa sansenba:de kaejoqta zibundja:kini
が 三歳ぐらいで 買っていた 時分だから。

K so:jo so:jo hijo:tinga sitiziqsen sitiziqsen
ぞうよ。 ぞうよ 日借(よう)貸が 七十歳 七十歳

komega zju:sansen gorinba:~djaqtaki atera makoto
来る 十三歳 五厘ぐらいだったから。 わたしなど ほん

to osikoku-heNroni ita:~a
とに 御四國 道路に 行ったが。

S imano hitoni ju:tati omas hon to:ni suruka-
今の 人に 言っても、 あなた 本当に するものか。

jo:

K aterane: zju:sitiba: no toki osikoku-heNroni
わたしなどはねえ 十七くらいの とき 御四國 道路に

i tagane: ano horja ohendo hendo hendo ken-
行ったがねえ。 あの はら お道路 道路 道路 けれ

do utino odi: jaNagano: onagano kowa ano:
ど うちの おちいさんがねえ 女の 子は あのう

ti qto osikoku-heNrodem o tekara uruse: meni
もっと 御四國 道路でも 行ってから 苦しい 目に

a:itjokan: josoe jomeni itati ikaniki:~da
会わしてねかなければ、 よそへ 嫌に 行っても だめだからなど

ju: tekara atera sono toki osikoku-heNroni
言ってから、 わたしなど その とき 御四國 道路に

i tagane: sono tokinja oman waradjo haitte
行ったがねえ。 その ときには あなた わらぢを はいて

itazejo waradjo do:da kiribusakara kagato:
行ったよ。 わらぢを。 ほんとに かかとから かかとを

tumetekara tiga detene: maqkoto tako: ju:~
つめてから 血が 出てねえ。 まことに 実際 言っ (何と言つた)

tati nanimokamoga kendo mio:ni mukasino
ても 何もかも。 けれど なんだか 菲の

hito tigo:te imano hitowa mjo:ni hakuzo:-
人と 通て、 今の 人は 変に 薄情

nato omoja:~seh
だと 思いは しない。

S hakuzo:naro:kano:
薄情だろうかねえ。

K ata: moqto mukasino hitoga zjo:ga aqta so-
わたしは、もっと 菲の 人が 情が あった、そ

rja kinjoga nanigoto:~da: ju:tati sunguni
ら 近所が 何事だと 言っても すぐ

hasiriko:~de kitekara oma:~jo: sewa sijqota-
走りこんで 来てから、 あなた よく 世話を していた

kendo imano hita oman satran kamin batja
けれど、 今の 人は あなた、 さわらぬ 神に 前は

n a s i n i h e q h e q t o j u : j o : n a k a q k o s i t e k a r a o m a n
 焼しに へっぷへと いうような 好好をしてから あなた
 h e g o : n a k o t o n a m e q s o j o b i n i k i t e k u r e n
 くさい ことには あまり 叫びに 来て くれん。
 S k i n z j o n o h i t o ð e m o d a r e g a k i t j u : j a r a m o s i r a n -
 近所の 人でも 誰が 来ているやらも 知らん
 z e j o
 え
 K s o r e k a r a h o r j a k o n o j o n e ð a d j a : t i s o : ð a j a i k a
 それから はら この 米田でも そうぢやないか
 j o s o k a r a n o h i t o g a n : t o h a i r i k o n d e k i t e k a r a -
 よそからの 人が うんと はいりこんで 来てから
 n e :
 ねえ。
 S w a k a r a n w a k a r a n
 わからん、 わからん。
 K s e : k a r a k i n z j o n o t u k i a i ð e m o a n m a r i s e n j o n i
 それら 近所の つき合いでも あんまり しないように
 n a q t a m o n o h o r a : h o n d j a k e n d o a t e r a d e n k i k a -
 なつたもの ほら。 そうだけれど わたしなど 電気化
 ð j a n a n d j a j u : k e n d o n e : d e n k i g o t a t u o i r e t e
 だ 何だと 言うけれどねえ、 電気ごたつを 入れて
 n e r u n j a n e j o u k e n d o a q p a r i m u k a s i n o a n k a g a
 寝るには 寝ているけれど、 やっぱり 昔の あんかが
 e : n o b o s e r u a t a :
 よい。 のばせる わたしは。
 S k o n o g o r o h o r e k a r a m u k a s i n o h i t o w a m a q t o
 この頃 それから 昔の 人は もっと
 k o : o m a i r i ð j a : j u : j o : n a k o t o m o s i z i n t o j u :
 こう おきりなんて 言うような ことも 「宿心」と いう
 k o t o s i q o t k a n d o
 こと していたけれど。

K s o : j o s o : j o s o : j o
 そうよ そうよ そうよ。
 S a n m a r i i m a n o h i t o w a m i t e m i : j a m a q k o t o
 あんまり 今の人は 見て みな。 全く
 o m a n k a m i s a m a w a ' d o k o n i a t u j a r a
 あなた 神様は どこに あるやら。
 K h i t o t u m o s o : ð i m o s e n j o n i n a q t a k i t i k a g o r a :
 すこしも 擦除も しないよう なったから、 近頃は。
 S s o : ð i m o s e n d o k o r o k a t e o a w a s e t e (o g a m u) k o t a
 擦除も しないどころか、 手を 合わせて (挂む) ことは
 n a i r o : t o o m o u g a
 無いだろうと思うが。
 K n a n z o t o j u : t a r a h e k a m i s a m a g a s o r j o : ð o
 何だと 言ったら、 ヘ 神様が それほど
 e r a k a q t a r a n i h o n w a k a m i n o k u n i : ... k a q t j o r a
 えらかったら、 日本は 神の 国勝っていた
 k a q t j o r a ð j a j u : t e k a r a h o n n a i d i k u s o n o w a r i :
 勝っていたとか 言ってから、 そんな 意地の 邪い
 k o t o b a q k a r i j u : t e n e : n a n b o k a m i s a n d j a t i o m a n
 ことばっかり 言ってねえ。 いくら 神様だって あなた
 s o n o i n i o m o u j o : n i i k u k a j o k e n d o m u k a s i m o
 そのように 思うように いくものかね けれど 苦も
 h o r j a o n a b a r e ð j a j u : t e k a r a m a k o t o o t i g o s a n -
 ほら 郡神事だと 言ってから ほんとに 御雅見さん
 g a d e t e i k u j a r a s e : k a r a o m a n k u n o h o r j a k o
 が 出て 行くやら。 それから あなたのうちの ほら こ
 ð o m o r a m o u r a j a s u n o m a j o m o : t a ð j a i k a k i r e : -
 どちらも 浦安の 舞を 舞っちゃないか。 きれい
 n i u r a j a s u n o m a j o m o : t a r i s i t e k a r a i m a m a ð e
 に 浦安の 舞を 舞ったりしてから。 今まで
 h o r a z u q t o k a m i s a n o o n a b a r e j u : t a t i b u r a k u
 ほら ずっと 神様の 御神幸と 言っても 郡落

burakue iki joqtakedo ima gaqko: ñjane: mo:
 部落へ 行っていたけど 今 学校だねえ もう。
 S gaqko: gaqko: mo: ima gaqko: ni naqtju: ota-
 学校。 学校。 もう 今 学校に なっている。 部
 bisjomo nai
 旅行も 無い。
 (利賀安國所)
 K otabisjomo naijoni naqtane:
 部族所も 無いように なったねえ。
 S nai nai iega taqte simo: te mukasino ota-
 無い 無い 家が 慮って しまって 昔の 部族
 bisjomo
 所も。
 K se:kara ano minna: ñga horja mjo:na sumotori-
 それから あの みんなが ほら 変な すもう取り
 no mjo:na mono kite se:kara mada omaNra
 の 変な ものを 帰て、 それから まだ あなたなど
 ateto tosiga tigauki sirankendo mukasino
 あたしと 年が 違うから 知らないけれど 昔の
 onabare ju:tara mo: si:one: si:no mi:
 御神幸と 言ったら、 もう 植(い)をねえ 植の 実 いー
 si:no mio karakara karakara karakara karakara
 植の 実を カクカラ カラカラ カラカラ カラカラと
 ju:tekara iqtekaran: soreo uru:se:kara
 いってから 炒(い)ってからねえ それを 売る それから
 (音を立てて)
 surume misega uriju: ñgaga so:rja kita sorja
 するめ 店が 卖っているのが。 そらう 来た。 そら。
 kita sorja kita minna kita tenagaga maikuru
 来た。 そら。 来た。 みんな 来た。 長い手が まるがる。
 (道駆無し)
 tenagaga maikuru ko:ta ko:tato ju:monde
 長い手が まがり駆る。 買った。 買ったと いうあんはいで。
 tenagaga maikuru ju:tara surumeo jaitara
 長い手が 卷きこむと 言ったら、 するめを 着いたら

oman tjaratjaraqto maikururo: ñgajo hondeno:
 あなた チャラチャラと 卷きこむだろう。 それでねえ
 zinzino onabare: ikuro: itara minna: sono
 神祭の 実を ガサ ガサ ガサ 音たてる。 それから 甘蕉(しょ)
 si:no mio gaza gaza gaza ju: se:kara kansjo
 植の 実を ガサ ガサ ガサ 音たてる。 甘蕉を
 kansjo horja kansjono o:kenagao urijou
 甘蕉。 ほら。 かんしょの 大かなを 売ってる。
 S taito areo suwabu taga nagaigao kataide
 ずいぶん あれを しゃぶったが、 長いのを かついで
 modaqte
 もどって。
 K sonna koto: ñqtakendo imago:ro oman kansjo
 そんな ことだったけれど、 今頃 あなた 甘蕉を
 sitari oman surumeda ju:tatine: oman tjan-
 したり、 あなた するめなんて 言ってもねえ、 あなた ちゃん
 to kikai:de nosite simo:te tjantso sitja:uro:
 と 機械で のして しまって ちゃんと してあるだろう。
 ano zibun:na oman surumjo hitotu kau ju:ta-
 あの 時分には あなた するめを 一つ 買うと 言って
 ti:ma: nisenka sanseñjaqtakendone: horja
 も、 まあ 二歳か 三歳だったけれどねえ。 ほら
 dodai nigijakana monjo
 まったく にぎやかな ものよ
 S so:jo omaturini juku: ju:tara goseñ moro:ta-
 そうよ お祭りに 行くと、 言ったら 五歳 もらった
 ra o:morai
 ら 大もらい。
 K zjo:to: zjo:to: zjo:to: sorja tiqto morai-
 上等 上等 上等。 それは すこし もらい
 sugiruba: ñqta soteba: soreba: no kotojqa-
 すぐるくらいだった。 それくらい それくらいの ことだった

kendo kjo: biwa mo: sonna koto ju:tati ikan-
けれど、 こんなには もう そんな ことを 言っても いけな

zejo horja onabaredja nandja ju:tati
いよ。 はら 御神幸だ。 何だと 言って。

S so:jo
そうよ。

K kendo ma: otagaini kore nagaikisijo:tara
けれど まあ おたがいに これ 長生きしていたら

tukino sekai ikuto ju:jo:na zibunni naqt
月の 世界へ 行くと いうような 時分に なって

kitakinino: honde mutukasi: ma:
来たからねえ。 それで むずかしい まあ。

S sanseija gosenba: moro:tati kodoma ima
三歳や 五歳くらい もらって、 子供は 今

jorokobja senzejo
喜びは しないよ。

K maqkoto ima oseibodjatino: bjakuenba: jaqta-
ほんとに 今 喜び落だってねえ 百円ぐらい 出した

ti jorokobanzejo
って 喜ばないよ。

S jorokobumonka se:sen jaranja: kodoma jorokobia
喜ぶのか 千円 やらなきゃ、 子供は 喜びは

senzejo nantja: ka:skini
しないよ。 何も 貰えぬから。

K ma: tonikaku nanja: rodjano: ano: nani:ga si-
まあ とにかく なにやろだねえ。 あの 何が し

nuku: seikatuga siniku: naqtane.
にくく、 生活が しにくく なったねえ。

S siniku: naqt a
しにくく なった。

K mo: kerunja mo: kerukendo horja hu:taiga
もうけるには もうけるけれど、 はら 費用が

irukini i: maqkoto kendo korja koko zju:-
いるから、 いー 実際 けれど こりや ここ 二十

nenmo sitara do: naruro:ne: kedo korem
年も したら どう なるだろうねえ。 けれど これも

tanosimizejo
楽しみだよ。

S ma: nagaikijo senja: ika:nga
まあ 長生きを しなければ いけないが。

K nagaikijo senja: (ikanga) atera mo: ija taq-
長生きを しなければ (いけないが)、 わたしなど もう いや。 あき

ta nagaikimo taqta taqta mo:
た 長生きも あきた あきた。 もう。

注

I. しばてん夜話

- (1) [p. 5] ate: atei 一人称。男女共用。高知市では若い人は、ほとんど使用しない。
- (2) [p. 5] sibaten は、ちびで、すもうがすき。人をみかけると、勝負をいどむ。相手になった大の男も、例外なく手玉にとられる。語源は「芝天狗」と言われる。田岡典夫氏は「天狗の幼虫」と解説している。
- (3) [p. 5] 「よいよ暑くなります。」というような共通語の用法と異なる。「ここは、いよいよ暑い。」などのように、「たいそう」「ひょうう」の意に使用される。
- (4) [p. 5] no:si という終助詞には、多少相手を勘案する気持がある。
- (5) [p. 5] 土佐の女性には hora hora; horja; horja horja などが頻出する傾向がある。相手の注意を引こうとする一種の強調現象か。
- (6) [p. 5] 高知県吾川郡伊野町
- (7) [p. 6] ほかに「鼻の穴」 hanano su
- (8) [p. 6] 普通は kura:i といふところ。
- (9) [p. 6] oma:ku (あなたの家)などがある。
- (10) [p. 6] いわゆる「抜け現象」
- (11) [p. 6] on:si は「お主(ぬし)」から由来すると言われる。男子が使用するが、相手を僻づつしている場合が多である。もっともごく親しい者同志が使用する場合は、かえって親愛をあらわす語とも言える。
- (12) [p. 7] 普通 tikitoku が理われるが、これはその強調形。
- (13) [p. 7] /s/ にしばしば/h/が対応する。
- (14) [p. 8] a: は 錠前には a'a 高知市およびその近傍で、60台以上の細人が使用する。威嚇詞。
- (15) [p. 8] 土佐人が頻発する感嘆詞 tama:ruka とも。
- (16) [p. 8] この bara は、とげであろう。
- (17) [p. 9] kibaru は、共通語と形は同一であるが、意味がちこしづれ、「いざる」は「らぶる」などの意。kiqtjoru は、ほかに rikimikiqtjoru などがある。「力む」の強調形。
- (18) [p. 10] hosoi の強調形。
katai — kaqtai

kakui — kaqkui
matai — maqtai (弱い)

- (19) [p.12] ~nika:raNは、土佐の代表の方言語訛。
arja nekonika:raN (あれはどうも猫らしい。)
asuwa do:mo hurunika:raN e jo (あすはどうも賊りそうだよ。)
(20) [p.12] omo:taniとも。この方がむしろ多く使用される。
(21) [p.16] 高知市の商店街。

2. 土佐のオナゴの よもやま放談

- (22) [p.19] この次に Sさんのかすかな声が聞こえる。oma:ga i: ja (あなたが言いな)であろう。
- (23) [p.20] 第三者の発言。障子をへだてて、誰かが芋煮正在。中年の女性の声である。
- (24) [p.20] 竹の皮のぞうりの側に皮を張り、鉛を打ったもの。この筋でよくかかとのあたりを打ち、鉛をした体験を筆者も持っている。
- (25) [p.21] ki:te:ki:ta:ki:tjoru (着)
ni:teini:ta:ni:tjoru (脱・着)
- (26) [p.22] 「突きに突いたろう」とも訳せる。このmakuruは
kakimakuru (書)
hukimakuru (吹)
nomimakuru (飲)
dukimakuru (づく(しかる))
などと productive である。これも一種の強調現象である。
- (27) [p.24] jo:rekajaruH, jogor eru の強調形。
hjo:rekajaru (ふざける)
- (28) [p.24] この形は中年以上の人人が使用する。(若い世代は jondara である。)ほかに
ko:da (噛んだ)
to:de (飛んで)
o:da (転んだ)
などがある。
- (29) [p.25] sijoqturo:は、若い世代なら sijoqtaro:
- (30) [p.25] makoto とも。男女を問わず、土佐人同士の会話によく現れる語詞。これも土佐人が強調的に物を言おうとする傾向の反映である。
- (31) [p.26] 土佐では sjo:ju: と、ending を引き音にするのが一般。

間 (p. 33) 背通は ur usai が呪われるべきところ。

隙 (p. 39) zがdに近く見える。

この会話には overlap がしばしばあらわれる。意気投合した者同志が話をしていて、話が面子に突って来るところを現象をおこすのは、むしろ自然の行き方かも知れない。

(補注)

* (p. 21) 「お伊ちゃん」は、四つがな識別の上から言えば、(odgo: tfan) と発音すべきだが、大概の土佐人が(ago: tfan) と発音している。識別與外語の一つ。

非売品

1968年3月

国立国語研究所 話ことば研究室 発行

東京都北区桶付西山村

